

歩いて学ぶ「西国街道の地理と歴史」

所員 南 出 眞 助

(国際教養学部教授)

1. 西国街道の地理的歴史的意義

近世の参勤交代で名高い西国街道は、京都から西に桂川を渡り、現在の向日市・長岡京市・乙訓郡大山崎町を南下し、天王山の山麓を巻いて大阪府三島郡島本町・高槻市・茨木市・箕面市・池田市を東西に貫き、兵庫県伊丹市・西宮市・芦屋市を抜けて神戸市へと至る、文字通り西国の要路であった。近世のいわゆる「五街道」には列せられていないが、それに準じる主要道としての地位は高く、九州・中四国諸藩の大名行列の一行を受け入れた本陣・旅籠の建築や、一里塚の痕跡も一部に残されている。その重要性は明治以後も高く評価され、明治6年(1873)には「東京より神戸港に至る」国道3号線に指定された。昭和27年の新道路法施行によって現在の国道171号線に主役の座を譲るまで、まさに北摂を横切る大動脈だったのである。

もとより西国街道は、大阪府下ではほぼ古代平城京ないし平安京時代の山陽道ルートを踏襲したものであり、沿道に大型の前方後円墳が並ぶなど、東西数十キロにわたる長大な古代文化ゾーンを形成している。京と各国の国府とを最短距離で結ぶための古代山陽道は、高槻市内の発掘例でも確認されたように、幅10メートル以上の立派な直線道路であり、その原初的な形態は奈良時代より前に遡ると言われている。そのため、近世西国街道／古代山陽道は歴史ウォークの恰好の対象となっており、沿道各市の教育委員会のみならず、周辺の大学やさらにはツアー業者まで加わってさまざまな歴史ウォーキング、スタンプラリー等が入り混じる、文化行事の密集地帯となっている。

これを本学との位置関係からみれば、西国街道は現キャンパス南方の茨木市耳原(みのはら)地区を通過しており、その東方の延長では新キャンパス予定地である茨木市太田(おおだ)地区の北側を通過する。つまり近い将来、現キャンパスと新キャンパスとを往復する本学の学生・教職員は、必ずどこかで西国街道を横切ることになるのである。そのように考えれば、いま西国街道の意義を再認識することは、茨木市に根付く本学にとって広い意味での「自校教育」にもつながると考えられる。

2. 本事業の概略

そのような地理的背景に位置づけられる今回の事業は、茨木市(生涯学習センター)と追手門学院大学(北摂総合研究所)との「連携講座」として行われた。内容の企画立案、説明者の準備、配布資料・機材等は本学側が担当し、茨木市民へのPRと参加者募集、さらに当日の説明会場となる公民館の手配等は茨木市側が担当した。

本学側の説明者として、南出が豊島所長(当時)からの下命を受け、全3回にわたるコース区分や見学ポイント、集合・解散地への交通アクセスなどについて、豊島所長や研究社会連携課の石田さん、八瀬林さんと協議した。この企画において当初から強調したかった点は、南出の専門分野が歴史地理学であるため、単なる史跡見学やエピソードの紹介に終わるのではなく、地形図と空中写真を用いて道路の傾斜や高低差に着目する路上観察の方法、あるいは道路と農地や用水路、宅地との切りあい関係から周辺地域の開発過程についてストーリーを組み立てる方法について解説することであった。タイトルをあえて「地理と歴史」とした点にも、じつは地理学に対するこだわりがあった。参加者にも、「ブラタモリ」のような歩き方をしますからと、最初にことわっておいた。

3. 各回の実施報告

以下に、各回におけるコースの概略および見学ポイント等について、簡単な実施報告をしておきたい。

第1回：11月11日（土）、宿川原バス停（郡山宿本陣）～幣久良（てくら）橋（白井河原）～鼻摺古墳～耳原バス停（阿為神社御旅所）、約2.5km、参加者19名。

本学側：南出、豊島、石田、八瀬林、茨木市側：久保氏（センター長）、杉浦氏、
郡山宿本陣解説者：梶洗（かじたけし）氏（第17代当主）

集合・出発地点の郡山宿本陣は今回の企画の最大の目玉である。参加者の多くはその場所をよく知っており、ご当主の厚意によって集合時間より前から客用の正面玄関を開けていただいたので、参加者は自由に建物内に入ることができた。ご当主の梶氏の説明は流暢で、また高齢にも関わらず熱弁をふるってくださった。本陣を外側から眺めたことはあっても、中に入ってご当主の説明を聞くのは初めてという参加者が多く、質問も相次ぐほどであった。ご当主の説明のあとで南出が3回分のコース説明を行った。資料として配布した『山崎通分間延絵図』、現在の空中写真（次頁図1）、明治41年測量の旧版地形図（図2）等のカラーコピーはいずれも好評であった。

郡山宿本陣を出てから東に向かい、道標を中心に説明した。中川原では、明治41年の地図では西国街道と2つのT字クランクで交わっていた亀岡街道がその後直線化されたとみられ、屈曲していた頃の痕跡をアルプラザの北側で確認できた。また幣久良（てくら）橋では、背後の幣久良山を一部堤防に利用した耳原大池と鼻摺古墳の周濠の水位が一致していることから、鼻摺古墳が作られた6世紀末頃には濠を潤す耳原大池と、安威川本流から取水してそこに流れ込む一ノ堰用水とがセットで完成していたことを説明した。このあたりから東方の耳原バス停までは古代山陽道の直線性をもっともよく残る区間であり、耳原大池・鼻摺古墳から枝分かれした用水路が台地上の条里地割地区を灌漑していることから、やはり古代の開発に因む地域であることも説明した。最後に阿為神社御旅所に到着し、「安威」と「耳原」とは距離的に離れているが地域としては一体であることを説明して解散した。直線道路区間は東行き一方通行のため抜け道として利用する自動車が多く、石田さん、八瀬林さんが常に参加者の安全確保に細心の注意を払ってくださった。

第2回：11月25日（土）、耳原バス停（阿為神社御旅所）～太田公民館～太田神社・太田茶臼山古墳～太田廃寺～巡礼橋バス停（春日神社）、約2.5km、参加者21名。

本学側：南出、豊島、石田、中川、茨木市側：久保氏、杉浦氏

前回の解散地点である阿為神社御旅所に再集合して東に向かい、旧亀山街道（府道茨木亀岡線の旧道）との交差点に立つ道標とその意義について説明した。近世絵図では付近に一里塚があったはずであるが、その場所は判らなかつた。名神高速道路の建設に伴い架け替えられた旧安威橋を渡って太田の集落に入った。ここは中世の宿場的機能を持っていた集落であり、その南側には太田城も築かれていたことなどを説明した。これより東も古代の直線道路痕跡はよく残っている。つぎに古代の太田廃寺跡、10世紀の「延喜式」に名をとどめる式内社の太田神社に立ち寄り、古代山陽道に沿う国家的宗教施設の存在について説明した。太田公民館でコース説明ののち、2回目の目玉ともいえる太田茶臼山古墳の横をとおり、さらに直線道路に沿って不自然に直角に屈曲する女瀬川（如是川）と灌漑用水路との関係などを説明しつつ、茨木市（古代の島下郡）と高槻市（古代の島上郡）との境界を越えて巡礼橋バス停（春日神社）に到着し解散した。

第3回：12月9日（土）今城塚古代歴史館～郡家今城遺跡～芥川橋～芥川商店街～JR高槻駅（全行程高槻市域）、約3.2km、参加者24名。

本学側：南出、豊島、石田、

今城塚古代歴史館解説者：森田克行氏（特別館長）、およびボランティア解説者

最終回は全域が高槻市内の踏査であったため、茨木市側の同行者はなかつた。。3回目最大の目玉である今城

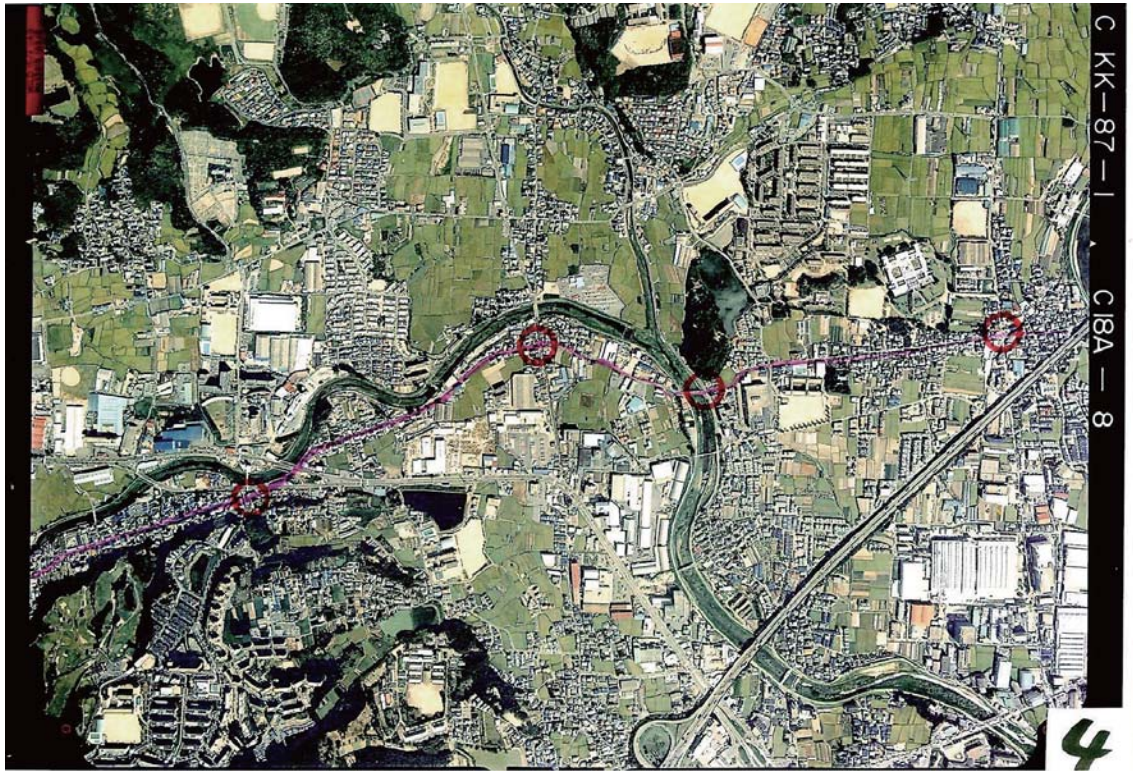


図1 1987年カラー空中写真（国土交通省国土地理院撮影，当日の配布資料より）

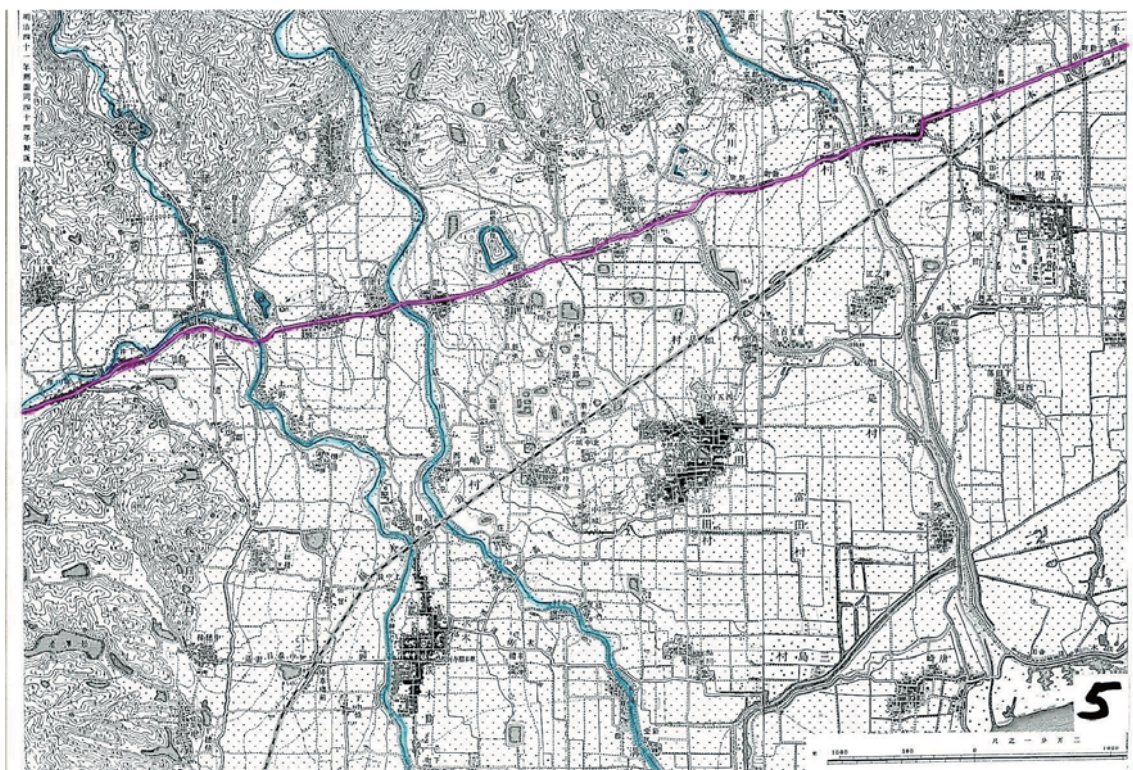


図2 明治41年測量2万分の1地形図（国土交通省国土地理院所蔵旧版図の複製版による）
（実際の縮尺は図の右下部参照，当日の配布資料より）

塚古代歴史館に直接集合し、特別館長森田克行氏の挨拶と概略説明、さらにボランティア解説者の展示品解説をいただいた。公園化されている太田茶臼山古墳を横切りながら、なるべく忠実に西国街道ルートをたどることにした。途中で古代の郡家今城遺跡を中心に、条里地割より古代山陽道が古いことが証明された発掘現場などの解説を行った。中世以後に屈曲される前の古代直線道路の痕跡を、住宅裏の水田で認めることもできた。芥川橋を渡ってからは近世芥川宿の街並みを説明し、一里塚跡や高槻城に向かう枝道等も見学して、話題は再び近世に戻った。芥川商店街より北側の道が本来の西国街道であることを確認したうえで、商店街のアーケードを抜けて解散した。

地図・空中写真以外の主な参考文献

- ・児玉幸多監修『山崎通分間延絵図』第一巻，東京美術，1978年。
- ・足利健亮『日本古代地理研究』，大明堂，1985年。
- ・『わがまち茨木－道標編（増補版）』茨木市教育委員会，1986年。
- ・『歴史の道調査報告書 第六集 西国・丹波街道』大阪府教育委員会，1990年。
- ・宮崎康雄「高槻市発掘の山陽道」，季刊考古学46，1994年。42～45頁。
- ・『平成27年秋季特別展 律令時代の摂津嶋上郡』，高槻市立今城塚古代歴史館，2015年。
- ・『国史跡 郡山宿本陣－椿の本陣－』，茨木市教育委員会，2016年。
- ・『平成29年春季特別展 太田茶臼山古墳の時代－王権の進出と三島－』，高槻市立今城塚古代歴史館，2017年。



茨木市 × 追手門学院大学 連携講座



歩いて学ぶ 「西国街道の地理と歴史」

全3回(1回目)11月11日土 (2回目)11月25日土 (3回目)12月9日土 / 13:00 ~ 15:30
参加費 無料・定員 30人(先着順) ※3回連続で参加できる方を優先します

茨木市の東西を貫く西国街道は古代の官道「山陽道」を受け継いで、江戸時代は「山陰・山陽及び西海諸侯の交通路として繁栄を極めた」(大阪府誌)とされています。茨木市の西端からJR高槻駅までの西国街道と沿線に散らばる数多くの古墳、条里跡、道標、地形などを、追手門学院大学国際教養学部 南出真助教授の案内で地理・歴史の両面から探る3回完結のワークショップです。いずれもコース途中の公民館などでその日の西国街道の特徴を学んだあとで現地探査します。



日時・コース	集合場所	コース
1回目 11月11日土 13:00 ~ 15:30	郡山宿本陣	郡山宿本陣(椿本陣) ~ 幣久良橋 ~ 鼻摺古墳 ~ 耳原(阿為神社御旅所) (2.5km)
2回目 11月25日土 13:00 ~ 15:30	阿為神社御旅所	耳原(阿為神社御旅所) ~ 太田公民館 ~ 太田神社・太田茶臼山古墳 ~ 太田廃寺 ~ 春日神社 (2.5km)
3回目 12月9日土 13:00 ~ 15:30	今城塚古代歴史館	今城塚古代歴史館 ~ 郡家今城遺跡 ~ 芥川橋 ~ 芥川商店街 ~ JR高槻駅 (3.2km)

現地集合・解散(解散後近隣の交通機関まで案内します。) 小雨決行・荒天中止



南出 真助
追手門学院大学
国際教養学部教授(歴史地理学)
北摂総合研究所所員

講師紹介



豊島 真介
追手門学院大学
国際教養学部教授(観光学)
北摂総合研究所所員

問合せ先
追手門学院大学 北摂総合研究所
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
TEL:072-665-5269

申し込み 申し込みは11月6日(月)午前9時から電話または窓口
茨木市立生涯学習センター
〒567-0028 大阪府茨木市畑田町1番43号
TEL:072-624-8182 <http://www.kira.city.ibaraki.osaka.jp/>



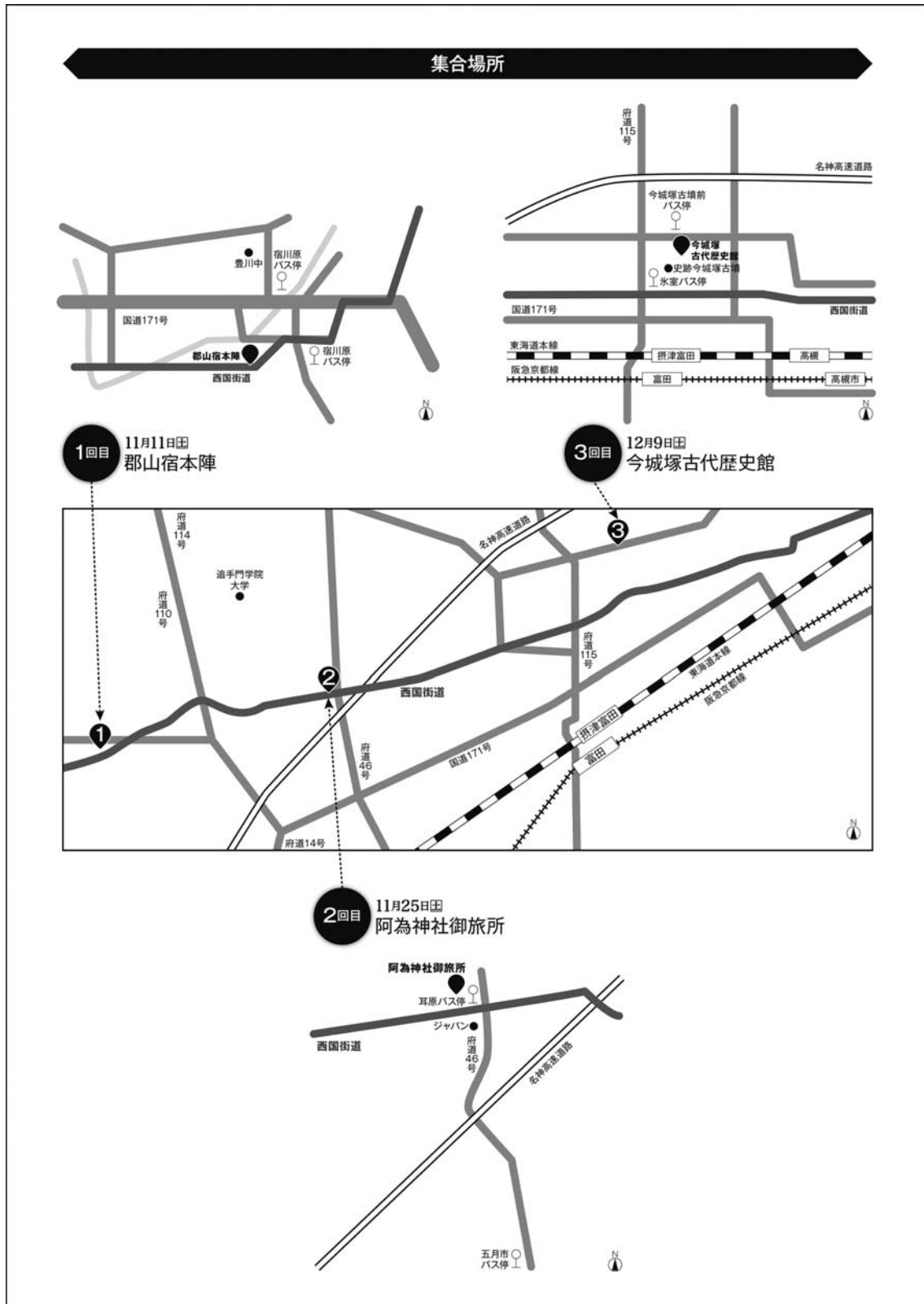
【傷害保険について】本講座では受講者に対して傷害保険をかけております。保険料は追手門学院大学が負担いたします。また事故が起きた際の補償は、大学が加入する保険の範囲内となりますので、予めご了承下さい。

【個人情報について】お申込み時にいただいた個人情報は、茨木市および追手門学院大学 研究・社会連携課が管理し、連携講座に関するご連絡および、今後開催する行事のご案内等に使用いたします。この取扱をご理解のうえお申込み下さい。



茨木市が2018年に市制70周年を迎えるにあたり、茨木市と追手門学院大学が連携講座を共催します。





茨木市×追手学院大学連携講座 歩いて学ぶ「西国街道の地理と歴史」 チラシ裏